

やとみ 歴史探訪

このコーナーでは、弥富市の
まだまだ知られざる歴史について、
弥富ふるさとガイドボランティアが
紹介していきます。



鍋田神社

「八穂地蔵」から南へ 100mほど歩くと、鍋田神社があります。

昭和 34 年 9 月 26 日の伊勢湾台風で、弥富市域では 300 名以上が亡くなりました。特に鍋田干拓では被害が大きく、農業をするために入植してきたばかりの若い人々が 133 名犠牲になりました。

鍋田神社は伊勢湾台風から 10 周年のときに、台風による死者や行方不明者の慰霊のために造営されました。境内には、伊勢湾台風殉難之碑と殉難者慰霊観音があります。



伊勢湾台風殉難之碑

市長の部屋

木々の葉も見事に色づく季節となりました。皆さまにはお元気でお過ごしのことと存じます。

さて、私ごとですが 1962 年 11 月 1 日生まれの実年です。この誕生日で満 60 歳、還暦となります。

還暦とは、干支・十干の組み合わせが 60 年で一巡することから、「元の暦に還る＝還暦」と呼ばれるようになりました。干支とはご承知のとおり「子・丑・寅・・・」の十二支のことです。十干とは、「甲・乙・丙・・・」のことです。十干の 10 と十二支の 12 の最小公倍数である 60 年が干支の一回りにあたります。

魔除けの力があるとされる赤いちゃんちゃんこを身に付ける還暦をひとつの節目として、これから市民の皆さまの安全・安心と幸せを願い走り続けてまいります。

夜寒の折、皆さまのご健康を心よりお祈り申し上げます。



弥富市長 安藤正明



広島研修



広島で見たもの ー平和記念公園ー

十四山中学校 伊藤 このみ

【原爆ドーム】

1915 年に「広島県物産陳列館」として建てられたものが、1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分にアメリカ軍によって原爆が投下され特徴的な骨組みが残り、それを「原爆ドーム」と呼ぶようになったそうです。被爆の苦しみを思い出したくないので取り壊してほしい、という声もありましたが、「戦争の悲惨さを伝えていくために残すべきだ」という考えのもとに保存運動が行われました。そして、1966 年に原爆ドームの永久保存が認められ、現在では世界遺産に登録されています。



【残された遺品】

松田敏彦さんは動員先の工場へ行く途中に被爆し、亡くなりました。敏彦さんは亡くなる際に、「僕がこんなヤケドをしているのでお母さんがかわいそう。」「三分の一をヤケドしているなら死ぬけど、僕は五十分の一だから死なないよ。」と言っていたそうです。敏彦さんの母親が自宅の焼け跡から遺品として拾ったビー玉が、平和祈念資料館に展示されていました。一発の原爆によって一瞬にして溶けたビー玉から、原爆の威力のすさまじさを学ぶとともに、敏彦さんが遊んでいたころの楽しい思い出がビー玉に込められているように感じました。

【感想】

私は研修を通して、私たちが恵まれた環境で生きているということに気がされました。厳しい時代を生き抜いた人々のおかげで今の私たちの暮らしがあることを学習したので、その人たちへの感謝の気持ちを忘れずに日々を過ごしていきます。また、今回学んだことを次の世代に伝えたり、さらに学びを深めたりと、戦争のない世の中が続いていく方法を考えていきたいと思います。

平和 ー広島研修を通してー

十四山中学校 前橋 渉

【原子爆弾とは】

ウランやプルトニウムといった元素に中性子を衝突させると原子核が 2 つに分かれ、エネルギーを放出します。これが核分裂であり、この反応が連鎖的に起こることで巨大なエネルギーが発生します。このエネルギーを兵器に利用したものが原子爆弾です。この爆弾が広島市に投下されてしまったため、大きな被害を受けることになってしまいました。熱線による被害は、爆心地から約 1.2 km の範囲内では、皮膚が焼き尽くされ、内臓までも障害を受けたそうです。また、爆心地から約 3.5km 離れた場所でも、素肌の部分は火傷による被害を受けたそうです。



【被爆者のお話】

原爆によって大きな被害を受けた広島市内では、多くの負傷者が亡くなってしまいました。残った人々は焼け残りの木の板や布などを集めて造った小屋や、外側だけが残ったビル、壊れた防空壕などに住んで生活していたそうです。また、爆心地から数 km 離れていても被害がないということはなく、火傷の被害などにあったという話を聞きました。火傷を人に見せると嫌がられそうで隠す人も多かったそうです。他には、戦後の食事はおなかを満たすために草を食べたりしていたという話も聞くことができました。いろいろなお話を聞くことができましたが、特に被爆者の人たちが伝えたいことは、「戦争を望む人はいない」ということです。

【感想】

研修を通して、さまざまな資料を見聞きして、原爆ドームは本当に過酷なものを伝えるために残っているのだなと思いました。怖い資料や話なども多くあり、時折目をそらしたくなりましたが、そらさずに全ての資料や話をじっくりと見聞きしたことで、戦争の悲惨さがよく分かりました。原子爆弾がどれほど恐ろしいものなのか、それらの被害にあうということがどういうことなのかなどを学ぶことができました。

今回学んだことや見聞きしたことを基に、戦争のない世界に向けて、今私たちができることを考えていきたいと思いました。